

## 学力向上が喫緊の課題－学校関係者評価より－

今年度最後となる学校運営協議会が2月22日に行われました。最終回は教職員自己評価、昨年12月に保護者の皆様から回答いただいた教育活動に関するアンケート結果を説明し、委員から質問や意見をいただき、次年度の学校運営に反映させることをねらいとしています。概要をお知らせします。

【意見】保護者は学力向上に関心がある。学力調査の結果が前年度を下回っている理由が気になる。原因等は次の三点と考える。①教科書が変わり、学習内容が増加したせいではないか。小学校からの底力が必要である。②小・中学校の情報交換が必要ではないか。③コロナ禍でのストレスのせいではないか。学び方が分からない、学習に気持ちが向かないのではないか。取り除くにはどうしたらよいのだろうかと考える。

【質問】学力検査を実施したのはいつか。また、結果が出て、どのように対応することとしたのかを教えてください。

＜令和3年12月実施の県学習状況調査結果＞

学年／教科	国語	社会	数学	理科	英語	全教科平均
1年	●	▲	△	△	▲	▲
2年	○	▲	●	△	●	△

県平均との比較：○平均並み ●やや下回る △下回る ▲大きく下回る

【回答】各教科20問しかない調査であるため、その問題を解くための対策というよりは、毎年実施される中で課題のある学習内容が明らかにされており、日々の授業で力を付けていくことが重要。秋田県は中学校1、2年生の学習状況調査、3年生の公立高等学校入学者選抜学力検査を一連の学力向上の方策としており、全校を挙げた授業改善が必要と考えている。

【意見・質問】学力調査の結果が前年度より低下したのは、教科書が変わったことが原因という意見があった。学習内容の量が増えている。生徒たちも大変だ。子どももストレスであろう。

【回答】教科書に掲載されていることを全て教えるのではなく、自分たちで学んでいく力を身に付けていく授業をすることが必要と考えている。教えようとして教員が話す量が多くなるほど、生徒は考えなくなる。

【意見】小学校から考える力を付ける練習をするとよい。「学ぶ→発展→考える」ことが大切だ。土台になるのは、小・中学校ともに基礎である。基礎が分からないと考えることができない。国語で、文章を理解するために漢字を読む力が重要であることと同じだ。基礎と応用を分けて、工夫して授業をするとよい。

【意見】コロナ禍でのご苦労があったと思う。活動に制約があった中、大変だったと思う。学校評価シートでは、自分に対する自信が低下している。1年生が低いのは成長過程か。今後、指導をお願いしたい。幼保・小では情報交換の機会はあるが、小・中ではどうか。

【回答】新型コロナウイルス感染症拡大前には年間2回、春は小学校が中学校で授業参観を、秋は中学校が小学校で授業参観を行い、互いに発達の段階や指導の状況を確認し合い、自校の児童生徒の指導に生かすこととしていた。

【意見】実際に児童生徒を見る活動は大切だ。

【意見】階段を上がるのではなく、スロープのように上昇する指導の方策が、保護者としてありがたい。

【意見】自分は高校の数学が難しくなったとき、何が分からないのかが分からなかった。何が分からないのかを言えるような引き上げ方をしてほしい。学校評価シートにあるように、安心して「分からない」と言える場があるとよい。

【意見】学校報以外に情報が入らない状況だが、生徒は成長していると思う。話を聞き、コロナ禍で大変だと感じた。学習指導と生徒指導で保護者の評価が高く、よい成果だ。例年より学力が低いのは気になるが、落ち着いて生活し、成長していると思う。人間的な成長がベースにあって、学力が向上するものと考えて。頑張してほしい。

【意見】健康が第一ではあるが、学力が県平均を大きく下回る要因を教師はどう捉えているか。2歳の孫は生まれたときからコロナ禍にいる。もはや非日常が日常なのか、非日常はやはり非日常なのかと考える。判断がしっかりできる人になってほしい。

【意見】学校報で、地域の雪かきとかまくら作りをした生徒のことを知った。よい行動だと感じた。

【意見】雪かきの取組はよい。民生委員に、一人暮らしの高齢者から住宅前の雪かきについて要望があるが、民生委員も高齢である。中学生はできないか。大きな行事ではなくても、小さなことから取り組むのはどうか。

【意見】コロナ禍では、何かに取り組むことは難しかったと思う。やってやれないことはないが、雪かきの取組も制約がある。現在、その時点のことを振り返ると実施したらよかったと思うこともあるかもしれないが、それは結果論だ。安全の確保や制約がある。判断したときは最高の判断だったと考える。



## P T A活動再開の方向性

令和4年度からの再開を予定しているPTA活動の方向性を協議するため2月24日、PTA正副会長会を開催しました。協議に先立ち、令和3年12月に実施した「PTAの組織や活動内容の見直し、役員選出の方法の再検討の必要性」に関する意向調査の結果について説明しました。強い賛同が4であるのに対して、全校の平均は2.4と「検討は不要」という結果だったものの、過年度に役員を経験した保護者の回答の平均は3で「かなり賛同」、実際に「賛同する」割合は75%に上りました。役員経験者でなければ課題は実感できない上に、役員の職務を行う負担が掛からない現状を変える必要がないという意向と捉えることができます。PTA改革は学校報でこれまでも数回にわたり、特集を組んで取り上げてきましたが、「生徒のための活動」「PとT両者の負担軽減」をキーワードとしてします。会長会では次のことを基本方針として、次年度の準備をすることとしました。①組織…専門部を置かない。学級数に四つの部を乗じた役員数は40名余り。依頼時の難儀、人数の多さに反した参加者数の少なさ等が課題。②活動内容…白紙とする。年度初めに事業計画を立てずに、「生徒のため」に「親子一緒」での活動を計画。③役員の選出…①のことから専門部員は選出しない。個人情報保護の観点から、名簿を配付しての推薦等は止める。④三役の選出…規約の人数にこだわらずに選出する。会長1名は必ず、副会長6名（うち1名は教頭）は若干名とする。また、学級委員を1名ずつ選出する。以上のことを4月に行うPTA総会で提案し、決議することとします。

